****
隔週刊「７８歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」　第１１６号
−健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌−
http://nazuna.com/tom/
２００３．８．２８　（木）発行 西東京市・ひばりが丘　原田　勉
**********発行部数 1710 部**********

＜キーワード＞

健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう。

＜原田編集長からのご挨拶＞「新『電子耕』の発展に期待する」

『電子耕』が４年目に入る１１３号の時、ひそかに８０歳まで続ければいいなと楽観的に思っていました。しかし、眼底出血による視力低下にため意外に早く主宰者を降板し着陸態勢に入る事態になりました。

７４歳の夏、創刊から３年余りの長い間にわたりご愛読頂きました読者の皆さん、本当に有り難うございました。心から深くお礼を申し上げます。

この度、幸いにも山崎農業研究所の編集同人から発行継続の申し出があり、別項のはがき通信でもメルマガ『電子耕』を継承と告示されました。従来の『電子耕』編集同人も何人かに継続賛成の声を頂きました。

新『電子耕』に私も編集同人の一人としてぼつぼつ＜舌耕のネタ＞の寄稿を続けたいと思っています。

今まで私ひとりで思うままに編集してきて、偏った考えもあったと思いますが、これからは編集同人の総意で多くの考えが寄せられ更に大きく発展することでしょう。新しい＜キーワード＞によって発展するよう期待しております。

次の１１７号からタイトルも隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」で始まると思いますので、今後も続いてご愛読下さいますようにお願い致します。
（山崎農業研究所に引き継ぎ会議を終えた８月２７日記す）。

□　目　次　　□----------

＜読者の声＞
増山さんから：中原さんから：吉田さんから：丹羽さんから：紀平さんから：
三村さんから：長谷川さんから：隅田さんから：松村さんから：渡辺さんから：
すずき産地さんから：斎藤さんから：森さんから：大山さんから：安澤さんか
ら：
＜山崎農業研究所＞　はがき通信 NO.190「メルマガ『電子耕』を継承」
＜山崎農研情報＞「拡大する遺伝子組換え作物・その２」大山勝夫（山研会員）
＜農文協図書館情報＞山崎不二夫文庫に外国文献追加（山崎農業研究所安富）
＜舌耕のネタ＞高齢者の不幸と幸福を決めるもの　原田勉
＜丹羽敏明の戦争体験＞１６、収容所内の人事移動
＜日本たまご事情＞「台風一過（８・１）」愛鶏園・斎藤富士雄
＜森　清の読後感＞鶴見和子・上田敏『患者学のすすめー”内発的”リハビリ
テーション』藤原書店、２００３年７月刊、２２００円＋税
＜私の近況報告＞８月７ー８月２７日（眼科治療、『電子耕』引継）
＜配信担当からお礼とお知らせ＞　internet SOHO なずなコム　原田太郎

＜読者の声＞

■8/7 増山さんから：
とりあえず、
原田さんの命に別状がないことに
ほっとしています。

「中学生にどう環境問題を教えるか？」
このところあまり起稿してきませんでしたが、
再開していきたいと思っています。

関連して近況報告です。

豊島社会福祉協議会主催の「ハートアンドハンド集会」
がボランティア団体の交流組織「トモニー連合」に企画・実行が
ゆだねられ、実行委員長に増山が就任しました。

１）「こども体験コーナー」を設け、
　国際交流、環境、昔遊びなど各団体で企画する

２）こども、高齢者をテーマにしたプレ企画を実施する
　　子供対象のものは韓国などの留学生に手伝ってもらって
　　「世界のお友達に酸性雨レポート＆メッセージを届ける」
　　酸性雨測定スクールを予定しています。

３）各学校に対し、社協名で広報し、
　地域の市民団体と学校、子供達をつなぐイベントとして活用する

４）テーマ別討論会を併設する
　候補としては、
　　・コミュニティサロンと中高生の居場所
　　・環境、国際理解教育のカリキュラム
　　・高齢者の参加とボランティア
　　・外国人とコミュニティ

　などがあげられています。

２）に関連して、最近、「地球市民交流会」と言う団体の
人達と交流しています。
先週は,チマチョゴリの試着会、今週はチヂミを食べる会
毎回、留学生や日本の小学生でにぎわうイベントになっています。
東京日本語文化学校の台湾留学生から環境クラブのウェブサイトの
翻訳のお申し出を頂きました。

それから、「ＮＰＯ法人・環境ケア」設立準備会が発足しました。
ダイビングスクール・ブルーアース新宿２１と提携し、
「神田川環境ケア」を実施,夏休みの体験ボランティア企画として
流域４区のボランティアセンターに登録したところ、
相当の反響がありました。

埼玉の実験農場で生産している野菜販売の環が広がりつつあります。

連載再開時は、こうした実践例についての理論的考察を述べていきたいと
思っています。

環境クラブ

http://www.ecoclub.co.jp/

=-

■8/7 中原さんから：
原田さま
ここはお体を第一に、お考え下さいませ、
これから暑くなるようで心配しております、何か
美味しいものでも探して御送りします、不定期でも
楽しみにしてます、
私は、６月にＪＡちばみどりの営農顧問を委嘱され
ました、ボランティアとしてやってる事には変わりませんが
登録外農薬、荷受会社の再編など喫緊の主題から
営農改革としての、コンプライアンスやマーケティングを
基本に置いた『みどり』の大野菜産地としての『行動基準』
を策定する事など、いろいろありまして忙しくしてます、

=-

■8/8 吉田さんから：
吉田悟郎のホームページ
http://members.jcom.home.ne.jp/goloh/index.html
ブナ林便り（毎日更新）
http://members.jcom.home.ne.jp/goloh/beech%20diary.html
から、
○原田勉さんは「７８歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」（現在 115 号）ｰ健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌 http://nazuna.com/tom/を息子さんも協力されて発信、発行部数 1707 部、内容は＜キーワード＞健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう＞として、私も 01 年 3 月＜ブナ林便り＞を始めたときから、ネチズンの大先輩のひとりとして知り合いそれ以来原田さんの『電子耕』は愛読し多くの勉強をさせていただいてきた。最近は岩波から出された好著『メールマガジンの楽しみ方』が評判になっていた。その原田さんから＜とても重要なお知らせ★　原田から不定期刊行のお知らせです＞が届いた。
（引用につき中略）
私も若い頃から高血圧症で長らく降圧剤のお世話になっている。ワープロ 15 年から PC ホームページ随時更新（すぐに毎日更新）3 年目　眼については原田さ

んと同じような心配があり、眼科にも定期的にお世話になっている。格段のご養生とご自愛を念じ上げる次第である。原田さんの『メールマガジンの楽しみ方』の読者も増え、原田さんの『電子耕』のあとを多種多様に継いでいく老若男女のネチズンが現れてきていると思う。

=-

■8/8 丹羽さんから：
眼が御不自由の中、１１５号を配信して下さいまして有り難うございます。本日松坂さんから電話をいただき、『電子耕』のおおよその方向はうかがいましたが、あまり無理をなさらずまずは養生に励んで下さい。ＮＨＫの岸さんから連絡ありました。お目にかかる日にちは未定ですが、拙宅へお越しくださるそうで、楽しみにしております。

=-

■8/8 紀平さんから：
原田勉さま
　どうぞ、じっくりとお休みください。
編集長交代は寂しい面もありますが、
新しい「電子耕」誕生という別のプラス面もあります。
編集同人のお一人として、また新しい関わり方を
されることと思います。期待しています。
長い間、本当にお疲れ様でした。

=-

■8/8 三村さんから：
毎回、充実したメルマガを配信していただきありがとうございました。
メルマガの送信が無くなるかもしれないと思うと淋しいですが
どうぞ、充分に休養をとって御身大切になさってください。

目のほうは大丈夫なんでしょうか。あまりＰＣの前で画面を見て
いるのは良くないでしょうね。どうぞ返信はなさらないようにして
ください。お大事に。

http://www.meibutsu.co.jp/cook/

=-

■8/8 長谷川さんから：
８月６日はお暑い中「桜隊原爆忌の会」へご参加いただき有難うございました。
お会いしてゆっくりお話を伺いたいと思っておりましたが、当日はあのとおり
目の回るような忙しさで時間がとれず失礼いたしました。その際伺った左目の
眼底出血のお話びっくりいたしましたが、『電子耕』ＮＯ１１５号で再確認さ
せられ、ショックを受けております。わたしも最近パソコンで視力が急激に落
ちたのを感じております。
どうぞお大事になさってくださいませ。

私にとって『電子耕』は唯一楽しみにしているメールマガジンですので、廃刊
だけは避けて頂けたらと思います。
不定期でかまいません、どうぞ同人の方々とお体に負担のかからないような方
法で細くても長くつづけて頂けたらと思っています。
「桜隊原爆忌の会」初めて参加いただいていかがでしたか？３年前に丸山定夫
さんの姪御さんご夫妻から私たち７名の世話人が事務局を引き継いで、「桜隊」
ゆかりの方々が高齢化とともに参加が難しくなり、ご法事の色合いから、『原
爆反対』の意味合いを強めてきています。
８月６日は９日とともに被爆国日本の国民として、原爆について考え、伝えて
いく大事な日だと考えています。この日に東京で催す数少ない集まりの一つと
して、これからも永く続けていきたいと思っておりまします。どんなことでもか
まいませんご意見ご感想をお知らせ頂けたら、これからの参考にさ
せていただきたいと思います。

「夢のかけら」
http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/
「桜隊」
http://www.h6.dion.ne.jp/~skr-tai/

=-
■8/9 隅田さんから：
　PC の故障で久しぶりで「電子耕」を拝見しましたが、目が大変悪くなったと
のこと驚きました。今まで私たちも驚くほどの随分と大変な仕事を続けられ
たのですから、おっしゃる様にされ、しばらくのんびりと養生されることに賛
成します。

=-

■8/10 松村さんから：
目に雲が懸かったとの事、電子耕で拝見、心配しています。慎重な君の事だから大丈夫と思が、十分注意節制をして下さい。
お互いもう年で無理の利かない体なのだと痛感しています。夏本番、暑さ負けしない様気を付け夏を乗り切って下さい。

=-

■8/13 渡辺さんから：
原田様 渡辺真由と申します。世田谷に住む 25 才です。２週間前に電子耕の定期購読を始め、昨日『メールマガジンの楽しみ方』を購入し、たった今読み終りました。お体の具合いはいかがでしょうか？私は原田さんの前向きな生き方にとても共感を覚えます。幼い頃から今でもずっと、おじいちゃんこであり、おばあちゃんこなので、自分が成長してもいつまでも、祖父母に元気でいて欲しいのです。私の元気の源です。原田さんは、シニアに希望や元気を与えるだけでなく、私のような若年者にもたいへん心強い存在です。心より、応援しております。
不定期刊行とのこと、たいへん残念ですが、無理をなさらず、何よりも細く長く続けていくことが大切だと思います。ほんとうの読者はいつまでも待てると思います。私は眼科専門の製薬会社勤務後、現在出版社で販売部に勤めております。いつも原田さんのように、心に夢を抱いて前に進みたいと思っています。
今後も宜しくお願いします。

=-

■8/14 すずき産地さんから：
茨城の鈴木孝夫です。
群馬の温泉でご家族で静養の由。

けさも肌寒いような雨模様です。
うちの田んぼでは、一枚だけ作付けした早生(ヒトメボレ)が
地域の誰よりも早く出穂しましたが、
はたして頭を垂れてくれるのかどうか…
コシヒカリのほうは、出穂が 10 日以上も遅れているようです。
おととい、宮崎の早場米の入札価格が昨年より
7700 円／俵も高くなっているというニュースが届いています。

さて、下記はうちの掲示板から私の書いたレスの転載です。

> 「電子耕」の発行を続けるのが困難になったという記事を読んで、
なずなコム（係長）氏（注：現配信担当）が関わりを深くして編集長代理を勤めればいいのではないか
という提案をしようとしてモタついていたら、
山崎農研から「耕」の別媒体版とすることになったというハガキ通信が届いてしまった。
残念。

(転載ここまで)

も、
さまざまな読者をつなぐ真ん中に位置しているわけですから、
どうぞ創刊者として、ひきつづきコメントはお寄せになることと存じます。
楽しみにしています。

すずき産地
http://www.suzuki31.com/

=-
■8/17 斎藤さんから：
原田先輩
ほんとに今年の夏はおかしいです、養生してください。
ひとまず原稿送っておきます、無理をなさらずに。

=-
■8/21 森さんから：
原田　勉様
>Subject: 電子耕１１６号８月２８日で私の発行は終わりです
●お疲れ様でした。
>メールによる一期一会でしたが、心にしみる励ましを頂き
>感謝しております。
●まさに現代的な結ばれ合いでした。大切にしてまいります。

>もし、よろしければ森先生に最後の「読後感」をお願いします。
>締め切りは８月２５日にお願いします。

●鶴見和子さんと上田敏さんの『患者学のすすめ』(藤原書店) をと思っております。ほかに、竹内敏晴氏の、林竹二先生との交流を描いた本（これも藤原書店）も面白い。いっそ、２冊にするかとも。
どうぞ、ご自愛を。

=-

■8/21 大山さんから：
電子耕今後の方針原案拝見しました.引き続いて一層の発展を期待します。
微力ながら事情の許す限り投稿させていただきます。

=-

■8/25 安澤さんから：
　ご健康のこと、一般読者としてとても残念ですが、ここはどうか治療に専念され、ご養生されて後に健筆をとって頂いた方が読者としては安心なのですが・・・

　私にとって「電子耕」は読み応えがあり、また各界の方々の寄稿には
考えさせられるものがあります。
　現在のマスコミの情報量は溢れるほどですが、あくまでも一方通行であり、国民にとって大事な情報は「官」に添った情報のようで、他は興味本位の情報に流されているきらいがあるように感じます。教育力のある国民をマスコミなども侮っているようにさえ感じてしまいます。

　その点「電子耕」の情報は幅が広く、そしてその内容も濃く捉えているように思えます。せめて隔刊でも発行して頂ければ有難いのですが。
　でも、ここは何分ご健康第一に優先され、一日も早いご回復を我々読者は待っております。

=-

●原田からコメント：皆さま、またまた私の視覚障害のためご心配をおかけしてすみません。言い訳は、編集長からの挨拶にも書いたようなことで何卒ご了承をお願いいたします。左目はまったくダメになった訳ではありません。治療の結果は巻末の＜私の近況報告＞に書きましたので、新『電子耕』にも少しづつ＜舌耕のネタ＞を書いて行きたいと考えています。今後もどうぞよろしくお願い致します。

山崎農業研究所　はがき通信　No.190　　2003.8.10

山崎農業研究所会員総会（‘2002 年度）終了
2003 年 7 月 5 日（土）４０余名の参加のもと、2003 年度活動計画等を検討、特に NPO 法人化に向け作業を進めることとした。山崎記念農業賞は、宮古農林高等学校環境工学科環境班に贈呈、その様子は新聞等によって広く報道された。「水危機・農からの発想」刊行記念フォーラム：農から変える「水の 21 世紀」も予定時間を大幅に越え熱心に論議された。

【現地研究会の開催：予告】
　１０月中旬、福岡市近在で先進事例の見学と九州在住会員の交流を目的に現地研究会を開催する。詳細は梅木利巳会員を中心に検討中。決定次第ホームページに掲載する。

【「耕」の電子媒体としてメルマガ「電子耕」を継承】
　原田　勉会員が発行しているメルマガ「電子耕」（通号 115 号、読者 1,700 人）を山崎農研が継承、新たなキーワードで編集発行することに決定。「まぐまぐ」「マッキー」から配信する。

【山崎記念農業賞基金：応募１０８口　・募集継続】
　「耕」９７号に同封、基金の募集をお願いした所、８月８日現在５４人が応募、５４万円の基金が集まる。心から感謝します。

☆ 新会員：芦田一夫、宇津木孝、後藤秀樹、邑上誠知、松沢　学、山田俊一、伊藤直喜
☆ 会員新刊：高橋彦芳「田舎村長人生記」本の泉社。2003/6

〒160−0002　新宿区坂町２６　ヴィップ第２四谷２０４
山崎農業研究所　　Tel：03−3357−6778（Fax：−6398）
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

＜山崎農研情報＞「拡大する遺伝子組換え作物・その２」大山勝夫（山研会員）
ー南米のＧＭ大豆事情ー
8/23

拡大する遺伝子組換え作物　その２
ー南米のＧＭ大豆事情ー

原田　勉・大山勝夫

　農林水産政策研究所の清水純一氏によると、近年、世界の大豆生産はこれまでの米国集中型から南米のシェアが拡大する傾向に様変わりしたという。０２-０３年度についてみると、米国:７３００万トン、ブラジル:４９００万トンアルゼンチン:３３００万トンであり、南米の大豆生産が５割を上回っている。

ところで、わが国が消費する大豆の大部分が外国に依存しているが、そこで気になるのは、これら大豆生産国におけるＧＭ（遺伝子組換え）大豆の動向だ。

　ちなみに、昨年度、わが国の大豆輸入量は５００万９千トンであるが、これを国別に見ると米国:３８２万１千トン、ブラジル:８１万２千トン、カナダ:１６万７千トン、中国：１３万６千トンである。これらのうちＧＭ大豆の割合は米国で約７割、ブラジルでも非合法でＧＭ大豆が栽培され、アルゼンチンでは約９割がＧＭ大豆となっている。

　南米の主要な大豆生産国はブラジルとアルゼンチンであるが、近年モンサント社による除草剤（ランドアップ）耐性ＧＭ大豆種子の売り込みが進められ、アルゼンチンではＧＭ 大豆が急伸しているのに対し、ブラジルでは、これまで政府として実質的にはＧＭ大豆の栽培を禁止してきた。

ところが近年、隣国のアルゼンチンから非合法的にＧＭ種子が入り込みＧＭ大豆が栽培されるようになった。こうした事態を踏まえて同政府は０３年度に収穫された大豆のみ０４年１月を期限としてＧＭ大豆の生産・流通を許可したという。また同時に遺伝子組換え食品の表示基準を強化する措置が実施され、従来、食品に含まれるＧＭ原料の割合が４％を超える場合のみ表示義務が課せられていたが、この割合を１％に引き下げて一層厳しい表示基準となった.。こうした措置に対しては業界・

団体は反発しているものの、ブラジルの消費者のうち７４％が「遺伝子組換えでない食品を選ぶ」と回答しており、依然としてＧＭ食品に対する消費者の不安は大きい（ジェトロ情報)。

　ＧＭ大豆の問題にかかわってきたアルゼンチンの農牧評議会のリカルド・ハラ理事の発言が印象に残る。「私も出来ることなら無農薬野菜と非ＧＭ食品を食べたい。でもそんな余裕のないのが第３世界の実情だ。何事も消費者よりも生産者優先で決まる。低コスト・大量生産それに合致したのがＧＭ大豆だ」と（毎日新聞７・２１)。
　南米の大豆事情を通じて、ＧＭ問題は消費者と生産者、工業国と発展途上国、南北問題などさまざまな問題が複雑に絡んだ課題である。

＜農文協図書館情報＞山崎不二夫文庫に外国文献追加（山崎農業研究所安富）

2003/8/22 サイト更新情報

◆山崎不二夫文庫目録追記
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/073yamazakibunko.html
洋書リスト
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/list/073yamazaki/13.html
　山崎農業研究所会員の安富六郎・田淵俊雄さんの協力によりロシア語書名を和訳したリストです

◆新規収蔵図書
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html

◆ニュース：平成 14 年度事業報告および収支計算書等公開
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200308/news1.html
平成 13 年８月 28 日、公益法人等の指導監督等に関する関係閣僚会議幹事会申合せ「インターネットによる公益法人のディスクロージャーについて」に沿って寄附行為・事業報告および収支計算書等をＰＤＦファイルで公開しました。今後、毎年更新してまいります。
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/kifu/index.html

◆話題の図書：『聞き書 ふるさとの家庭料理　第 16 巻 味噌・豆腐・納豆』

各地のお国柄がにじみ出た味噌・なめ味噌、豆腐・変わり豆腐、納豆つくりの技と、これらを主材料にしたおかずの数々。大豆を材料とした味噌・豆腐・納豆は日本型食生活の基本であり、今日の健康長寿社会の礎である。
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai011.html

＜舌耕のネタ＞高齢者の不幸と幸福を決めるもの　原田勉

「老いを不幸にする最大の原因は、高齢者が自らを表現することが困難になり、青年・壮年は高齢の内実を想像できないことにある」（『文芸春秋』2001. VOL.79 NO.15 東谷暁）という文章がありました。

近藤康男『七十歳からの人生』の編集をしているときに、近藤康男は稀にみる超長寿者だから、その人の真似はできなくても少しは近づけるかなと考えて私は７４歳から『電子耕』を始めました。目的は今の内に自己表現をしたい思いだったのです。それによって高齢者と若者の＜読者の声＞の交流を通じて、思いもかけぬ多くの人々との出逢いが生まれ、いろいろなことを学びました。病気になって落ち込んでもメル友に激励されて無事７８歳になりました。

思えば、私にとってこの３年余りのメルマガ生活は「晩年になって最高の幸せを得ることができた」と読者の皆さまに感謝しております。

しかし、このたび私は視力低下により自己表現が難しくなりました。とても１００歳を超えても著述をしておられる近藤康男先生のようにはいきません。

私の周りでも７５歳を過ぎると手紙を出すのも電話をかけるのもおっくうになったという友人が増えてきました。研究会やクラス会の出席者も年々少なくなって交流が出来なくなっています。

はじめに挙げた引用文のように「老いの不幸は自己表現が困難になり」その高齢者の身体や心の変化を若い人は想像できません。昔の人は、「その寂しさに耐えながら生きてきたのだ」と今になってわかりました。人間は、その場にならないと判らないとは情けない話ですが、誰もが通る道でしょうか。

私は眼が見えるかぎり、「がんばらない、諦めない」で少しづつでも＜舌耕

のネタ＞のコラムで自己表現を続けていきたいと思っております。どうぞ今後ともよろしくお願いします（2003.8.25）。

＜丹羽敏明の戦争体験＞１６、収容所内の人事移動
8/8

私たちが作業に出ている間に、作業隊内では大きな異動があった。作業隊長の交替である。陸軍の大窪少佐が海軍の伊藤少佐に交替した。大窪少佐は隊員たちの評判がすこぶる悪かった。その理由は、テント内の整頓が悪いとすぐ直させたり、所内の清掃にロうるさかったり、作業出発時の服装が悪いと怒鳴ったり、とにかく日本兵に対して極度に厳しかったからである。これが所内管理に神経質なほど厳しい収容所長の英軍将校（日本兵を奴隷扱いするのでわれわれからは蛇蝎のごとく嫌われていた）に迎合しているととられた。「バシー海峡で鱶の餌食にしてやる」などと物騒なことを口にする者さえいた。しかし今にして思えば、作業隊長として１日も早く無事故で内地へ帰還させるには、英軍に逆らわないようにすることを第一と考えていたのかも知れない。そうであれば「親の心子知らず」であった。それに比べると新任の伊藤少佐は海軍の連中の人望が厚く、作業隊長としても、日本側に立って積極的に英軍側に交渉してくれた。その人柄を物語るエピソードを当時の副官・平澤中尉の手記から抜粋する。

『伊藤さんは准士官以上を集めてときどき講和をされることがあったが、常に「兵を導く根本思想は愛でなければならい」と言っておられました。軍規とか命令を兵の指導方針と教わっていたわれわれにとって“愛”という言葉は柔弱なひびきがありました。愛とは何ですかと食ってかかった若い将校に「無警察、無秩序のキャンプ生活に秩序をもたらすものは、人間相互の信頼と愛情である。たとえ将校であっても、自分に非のあるときは、裸になって兵に謝るべき気持ちが大切である」と諭されました。忘れもしない、ビスケット４枚が１食という苦しい生活をしていたある夜、英軍の禁止令を無視してかっぱらってきた敵産の被覆をキャンプ所長に発見されて、突然夜の９時ごろ１個中隊のインド軍によってキャンプ中を検査されたことがありました。地面を掘って埋める者、山と積んで火をつける者、ハチの巣をつついたような大混乱になりましたが、このとき伊藤作業隊長は、カッパライも焼却も埋没もすべて自分が命令してやらせたものだと申し出て、キャンプ６千人の責任を一人で負われ、重営倉に入られたのでした。私は当時の部下として何事も出来得なかったことを今

も恥じると共に、その勇気ある行動に泣いて詫びたものでした。』（注：伊藤さんは昭和 41 年に、平澤さんは昭和 59 年に亡くなられた。）

それから間もなく収容所長にも異動があった。うるさ型のカムオン大尉が交替した。その頃のキャンプ内は、隊員の不平・不満が横溢して物情騒然たる雰囲気が漂っていた。「われわれは奴隷ではない。降伏軍人だ」との自覚から待遇の非人間的扱いに我慢も限界だ、と一部に反乱を起こそうとする気配さえ見えた。こうした雰囲気が英軍側にも伝わり、穏健策をとることに方針を変更したようだ。カムオン大尉の更迭はその現れだと思われた。新任の所長はサウスベリーという軍曹で、この人は温和な思想の持ち主だった。収容所の出入りの際のユニオンジャックに対する敬礼は廃止された。またキャンプ内にスポーツや文化的活動が認められるようになった。野球部が出来、文化厚生部が創設された。

＜日本たまご事情＞「台風一過（８・１０）」愛鶏園・斎藤富士雄
8/17

台風１０号が全国に被害を残して通り過ぎ、そして暑さが戻ってくる筈であったが今年はおかしい、いまだに涼しい。
台風で恐ろしいことは色々とあるが、最近の養鶏家にとっては停電が最も恐ろしい。特にこの頃の鶏舎はウィンドウレスで自動化が進んでいる、気温の高いこの時期は一刻も電気無しではいられない。確かに緊急時の発電機は用意してあるが、たいてい最小限のものしか用意されていない。ましてや２−３日以上にわたる停電など未経験なので、無事切り抜けられるか心配の種はつきない。

今年の夏、原子力発電のトラブル隠しで発電がストップし、日本に大停電が心配された。
このようなピンチの時、さすが日本人は各人それぞれの立場で良識を発揮して事なきを得た。
大停電が起きればその被害ははかり知れない、現にアメリカ、カ州でのそれが現実に起き大問題となった。

悪い悪いと言われた日本の経済もどうやら底を打ったらしい。マスコミは日本の現状を必要以上に悪く言いたがる、良い状況があっても取り上げない、まるで良くなっては困るみたいだ。

日本の鶏卵業界も戦後最低の卵価と騒いでいるが、世界の鶏卵業界の状況に比べればこんな恵まれた国はない。
世界最大の一人当たり鶏卵消費国にいながら贅沢は言えない。日本の鶏卵業界は「経済の問題は経済で解決する」、下手政治が絡むとややこしくなる。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

＜森　清の読後感＞鶴見和子・上田敏『患者学のすすめ―”内発的”リハビリテーション』藤原書店、２００３年７月刊、２２００円＋税
8/24

原田勉様

残暑厳しい日です。それでも、ふっとそよぐ風が秋を感じさせもします。地球も終わりということでしょうか。どうも、鶴見さんなどと違って、マイナス志向が強くて困ります。

電子耕、116 号の拙稿を送ります。昨年秋以来、お世話になりました。森拝

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
「電子耕」１１６号

鶴見和子、上田敏『患者学のすすめ―"内発的"リハビリテーション』藤原書店、２００３年７月、２２００円＋税
http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=03037769

［"自律する患者"を、専門職支援者の「協業」を提起］
　鶴見和子さんは、いま大活躍である。障害を持ちながら知的巨人の生活を楽しんでいるようだ。６月に続いて新著を出された。

　1995 年 12 月に脳出血で左片麻痺になり、一年ほど「機能回復訓練」（従来型のリハビリテーション）をして、もう歩けはしない、車椅子生活のほかはないと覚悟を決めた。しかし知的生活は怠らなかった。その療養の中で、上田敏氏

の『リハビリテーションの思想』（医学書院）を読み、「我がこととひき比べつつ胸に落ちぬ　上田敏の『リハビリテーションの思想』」と歌った。その短歌を収めた歌集『回生』（私家版、流通本は藤原書店）を贈られた上田医師が鶴見さんに連絡をとり、診察しましょうかと申し出た。

その出会いとその後の経過は、本書にも語られているが、すでに数冊の著書となっている。その本は筆者にとって感動ものなのである。それは多様な問題考察の基本となるように思えるからである。一つには高齢者の個人を生かすにはその人の人生を基盤にすること。二つには、気持ちをなえずに目標をしっかり立てて「お稽古」（鶴見さんの言、「訓練」ではない）する、それが人を向上させる基となる。三つには、それらのためには自分の気持ちや状態をよく知ること、支援者が必要なら十分に話し合い、どのような支援を頼むか判断できるように備えること。

上田医師とその盟友大川弥生医師が鶴見さんと初めて会った。鶴見さんは、着物が大変に好きだ。日本はもとより、外国でも日常着として着ていた。それならば着物を着ることを目標にしようと二人はいった。鶴見さんはそんなわけにいくはずがないと思った。しかし上田医師は、着物を着て外国へ行って英語で講演する、それを目標にしようと提案した。「そんな」といぶかる鶴見さんとじっくり話し合った大川医師は、三つのリハビリ目標を提示して鶴見さんに考えてもらった。そのカルテが本書に載っている。医師が「こうしましょう」というのではなく、患者に医師としての専門知識で方法と目標を示し、患者に決めさせる。それが上田医師たちの推進する「目標指向的リハビリテーション」である。この方式は、上田医師によれば本来のリハビリテーションということになる。

鶴見和子さんは「内発的発展論」を発想し、確立した。筆者の理解で大まかにいうと、地域にしろ国にしろ、人間として幸せになる共通目標を立て、それを実現するために内包する条件を活用して発展することが大切だというものである。しかもその手段は、他者に依存するのではなく自律的であることを重視する。

この論は、目標指向的リハビリテーションにほぼ同じである。それで本書の副題となった。しかし上田医師は、鶴見さんの理論にその発展モデル決定の方法とその援助の方法が独裁的、支配的になりうる点を批判した。シンガポールやインドネシアの指導者に独裁的な人がいること。彼らは内発性を重視した。それをどう考えるか。病者に鞭打つその論戦は、従来の日本では遠慮するのが

普通だ。しかし上田医師は、自立と援助は、医療、リハビリテーション、介護などの分野で重要な主題であると考えているから、あえて論戦を挑んだ。鶴見さんは、それはかねてからの課題であると素直に答え、これから命ある限り考えようといって「有難う」と感謝した。

さらに上田医師は、「協業」を問題にする。リハビリにしろ介護にしろ、種々の専門職が協力して対応しなければ目的を果たせない。しかし、それぞれが専門性の壁を立てて譲らないことが多い。それでは患者、被介護者が迷惑する。人が生きていくには、大勢の人の力が必要である。そこで合理性を図ろうとすると分業になる。それではならない。分業しつつ協業しなければならない。日本社会はこの点で遅れている。しかし、遅れているところがトップになるということもあるから努力したいと上田医師はいっている。

本書は『患者学のすすめ』と題された。医療、リハビリ、介護で自己決定が大切だとされるようになった。それにはそれを実行できる力を持たねばならない。筆者は、普通に暮らしているものこそ、元気なうちにこそ患者学をマスターすべきだと考えている。ともあれ医療関係者と話ができる素地を養おうと拙著『生死の作法』で提案した。「医療コミュニケーション法」を学ぼうといったのである。

鶴見和子さんの「元気」を見習いたい。また、上田医師の主張と実践が私の周辺で日常的に享受できるようになることを期待する。筆者は腰に異常をもっている。そのために整体治療院に世話になっている。熱心に施術はしてくれるが、あまり科学的とは思えないし、目標指向的ではない。それで不満なのである。機を見て話してみたい。

原田勉さんのご努力に敬意を表し、今後のご自愛を祈る。リハビリテーションでは「お大事に」という言葉は禁句なのだそうだ。それで「がんばらない、あきらめない」（鎌田實氏）の思想で人生を全うしてくださいと申し上げておく。

＜原田からお礼の言葉＞
8/24
森　清先生
長い間に珠玉の原稿の数々ありがとうございました。
読者の中には森さんのコラムを楽しみにしているという

＜読者の声＞があります。山崎農業研究所でも緒方さんの
「共生の構造」をコピーして所員に配布したと言っています。
今回の鶴見・上田さんのこと肝に銘じておきます。
そして「がんばらない、あきらめない」で行きましょう。
私も視力がダメになったとあきらめていたら鍼灸院で
「あきらめないで、やれるだけやってみよう」と言われ、
東洋医学を見直し、指導されて目を覚まして治療を続け
ています。また「電子耕」で報告します。

＜私の近況報告＞８月７ー８月２７日（眼科治療、『電子耕』引継）

８月７日、山崎農業研究所　幹事会で『電子耕』の説明を行い継承して頂くとの了解を得る。１０日はがき通信で『電子耕』を継承と会員に公表される（前記）。

１１ー１６日、農文協図書館夏休み
１２ー１４日まで、群馬県小野上温泉に休養・湯治にゆく

１８日、農文協図書館出勤、午後視力回復に鍼治療にゆく
１９日、Ｙ眼科で検診。視野検査の結果、右眼はほとんど明暗が判る程度、視力・０、０５。左眼は天井と上の方左右の視野が狭い、真ん中は正常に見える視力・０、７。左目の眼底出血は眼底写真によると、４週間前の痕跡が残っている程度に回復。続いて動脈硬化の予防と血管補強・止血剤として（アドナ）＋ビタミンＣを処方。今後、眼を酷使しないように注意を受ける。

２０日、山崎農業研究所の『電子耕』編集メーリングリスト開始、早速参加する。引継事項を送信する。

２１日、文化座友の会から故信元安貞会長の追悼文を依頼される。２２日脱稿、劇団文化座に送信する。９月中旬発行の機関誌に掲載される。

２６日、山崎農業研究所で『電子耕』引継について打ち合わせ。隔週刊で継続すると決定。次の１１７号は９月１１日発行締め切りは９月８日、読者からのメールは従来の tom@nazuna.com　を使用されたい。

２８日、農文協図書館運営委員会、近藤康男先生のお見舞いにゆく。

２９日（予定)、町田市自由民権資料館で「浪江虔展示会」を１０月から開くに当たって資料として浪江さんの『誰にもわかる肥料の知識』のスライド版「空へ肥えまく五助さん」を借りたいと杉山さん来館。農文協の歴史ビデオも見て打ち合わせする。

次回１１７号は下記の通り新タイトルになり山崎農業研究所発行となります。

****

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第１１７号

−原田勉から引継いだ環境・農業・食べ物など情報の交流誌−

２００３．９．１１　（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人

＜新キーワード＞

　環境・農業・健康・食べ物などの情報を提供し、高齢者と若者、農村と都市の交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。

****

原田勉も編集同人の一人として参加します。続いてご愛読下さい。

発行日は９月１１日、投稿締切は９月８日となりました。

読者からのメールは従来の tom@nazuna.com　を使用して下さい。１１７号から変更になります。

配信担当からお礼とお知らせ　　原田太郎

　創刊以来、＜父が書き入力し、息子が成形・配信する＞という２人３脚を続けてまいりましたがそれも今号が最後です。

　発行を薦めた手前、４年もやるはめになりましたが、私も人には言えぬ病苦とつきあいながら、よくも欠号・〆切遅れもなく、ここまでやってこられたと感心してしまいます。父の意欲に支えられての「快挙」だと思います。

人生最良の仕事でした。

　今まで、父を励まし、支えてくださった多くの読者・マスコミの皆さんにあらためてお礼申し上げます。特に、『電子耕』が出版という形でひとつの実を結んだことは大きな幸せでした。ありがとうございました。

　今後の配信は山崎農研の若い山本圭さんに引き継ぐことになりました。今後とも『電子耕』をよろしくお願いします。

internet SOHO なずなコム　代表
http://nazuna.com/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

１、件名（見出し）を必ず書くこと。読みたくなる見出しを簡潔・明瞭に。
「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的にズバリと書き出す。
２、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めの方に書く。
３、１回１テーマ、書き出し・本文・結論を１０行位にまとめる。
４、送信する前に、何を言わんとするか、読み返し、推敲することが大切。
５、ホームページを持っている人は、文末にＵＲＬをつける。
６、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックをする。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。html メールもご遠慮ください。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：本体７００円＋税　発行日：2002 年１０月４日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/10.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****

隔週刊「78 歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」　第 116 号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
2003.8.28（木）発行　西東京市・ひばりが丘　原田　勉
mailto:tom@nazuna.com
発行部数 1710 部 **********ここまで『電子耕』*******